

第3回抗体保有調査 速報結果 (令和3年度新型コロナウイルス感染症大規模血清疫学調査)

概要

- 令和3年12月3日～27日にかけて、東京都・大阪府・宮城県・愛知県・福岡県において、無作為抽出し、本調査への参加に同意をいただいた一般住民の方(東京都2036名、大阪府1455名、宮城県1700名、愛知県1581名、福岡県1375名、計8147名)を対象に抗N抗体、抗S抗体の2種類の抗体検査を実施しました。
- 新型コロナウイルスに自然感染した場合は抗N抗体・抗S抗体の両者が陽性になり、ワクチンを接種した場合は抗S抗体のみが陽性になると考えられています。

測定結果 (まとめ)

- 各自治体で抗N抗体が陽性であった割合は以下の通りでした。
(※自然感染を想定)
東京都 2.80%, 大阪府 3.78%, 宮城県 1.18%, 愛知県 1.58%, 福岡県 1.45%
- 参考 第1回結果(令和2年6月) 東京都 0.10%, 大阪府 0.17%, 宮城県 0.03%
第2回結果(令和2年12月) 東京都 1.35%, 大阪府 0.69%, 宮城県 0.14%,
愛知県 0.71%, 福岡県 0.42%
- 各自治体で抗S抗体が陽性であった割合は以下の通りでした。
(※ワクチンによる免疫保有者または自然感染の合計を想定)
東京都 96.9%, 大阪府 94.6%, 宮城県 97.2%, 愛知県 95.8%, 福岡県 96.9%

第3回抗体保有調査 速報結果 (令和3年度新型コロナウイルス感染症大規模血清疫学調査)

測定結果 (速報)

宮城県

	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計
N抗体 (+)	20	0	20
N抗体 (-)	1632	48	1680
計	1652	48	1700

東京都

	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計
N抗体 (+)	57	0	57
N抗体 (-)	1915	64	1979
計	1972	64	2036

愛知県

	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計
N抗体 (+)	25	0	25
N抗体 (-)	1490	66	1556
計	1515	66	1581

大阪府

	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計
N抗体 (+)	55	0	55
N抗体 (-)	1322	78	1400
計	1377	78	1455

福岡県

	S抗体 (+)	S抗体 (-)	計
N抗体 (+)	20	0	20
N抗体 (-)	1312	43	1355
計	1332	43	1375

N抗体保有割合
[95%信頼区間]

S抗体保有割合
[95%信頼区間]

累積感染者数
/人口※参考
(12/27時点)

1.18%
[0.75-1.82%]

97.2%
[96.3-97.9%]

0.71%

2.80%
[2.16-3.62%]

96.9%
[96.0-97.5%]

2.73%

1.58%
[1.06-2.33%]

95.8%
[94.7-96.7%]

1.42%

3.78%
[2.91-4.90%]

94.6%
[93.4-95.7%]

2.30%

1.45%
[0.93-2.25%]

96.9%
[95.8-97.6%]

1.46%

留意点

- すべての地域で、対象集団における抗S抗体の保有割合は約95%と非常に高い値であり、新型コロナウイルスワクチンの接種により多くのものが抗体を獲得したと考えられました。抗N抗体の保有割合は、人口と累積感染者数から推定される累積感染割合よりも高い傾向ですが、大きく変わらない地域もありました。
- 結果の解釈に際しては、感染、発症、重症化の予防に必要となる抗S抗体の量は判明しておらず、抗S抗体保有者においても十分な量の免疫が誘導されているかどうかについては不明であることに注意が必要です。また、無症状者では抗N抗体陽転率が低いことや、獲得した抗N抗体が長期的に減衰していく可能性が報告されており、無症状者を含んだ全ての既感染者の正確な割合を示しているとは限りません。
- なお、本調査の対象集団のワクチン接種率は、一般人口のワクチン接種率（内閣官房公表データに基づく）よりも高かったことが分かっています。これは新型コロナウイルス感染症対策について高い関心をもつ方が、調査により多く参加されたという選択バイアスの存在を示唆します。このバイアスが、抗S抗体および抗N抗体の保有割合の結果に影響した可能性があります。
- 本公表結果は速報結果です。最終的なデータは確定結果として後日公表します。